

統合新領域学府 ユーザー感性学専攻 教育の目的					<p>・知の活用主体であるユーザーの視点から、また、感性を基盤とする人間理解の上で、感性価値の創造を推進する高度な専門人材を育成する。</p> <p>・感性の研究教育を通し、さまざまな知を感性と融合させ、個人と社会の満足を創造する能力(学位:感性学が該当)、ユーザー感性学の方法論に芸術工学のモノづくり及び技術の人間化の視点を融合させた新しい知の統合を実践できる能力(学位:芸術工学が該当)、ユーザー感性学の方法論に工学的手法を活用した研究内容及び研究成果を有し、工学分野での評価が認められる研究能力(学位:工学が該当)を有する高度専門人材を育成する。</p>																				
感性科学コースのカリキュラムマップ					ユーザー感性学専攻の学位プログラム(DP)																				
					(☆:DP達成のために、特に重要、◎:DP達成のために、重要、○:DP達成のために、望ましい)																				
					到達目標																				
授業科目名					A 知識・理解				B 機能 (B-1専門的能力)				B 機能 (B-2汎用的能力)				C 態度・指向性								
					基礎知識を習得し、ユーザー感性学の広範な研究分野を理解する。				専門基礎知識を習得し、応用に向けた実践的活用ができる				手法による支援、開拓、を行うことができる。				問題の発見・定式化・解決を自主的に行う姿勢を有し、応用を常に意識して基礎理論の研究に取り組む。								
開講年次					学生1人ひとりの出身分野や関心領域を活かし、ユーザー感性学という専門分野を説明できる。	実社会の現実の課題に対し、チームで取り組み、ユーザーの感性を用いて高度な解決策を提案できる。	PTL(プロジェクトチーム演習)及びインターンシップにより、実践的な場面で有用な知識を習得する。	感性科学コース、感性コミュニケーションコース、感性価値創造コースの3コースにおける各専門性を活かした、より高度な知識を習得する。	企業での感性評価技術の開発及び製品評価の研究開発ができる。	企業のマーケティング調査及び製品企画に関わる企画研究ができる。	医療、福祉、教育現場などの情報サービスの調査・企画研究ができる。	大学等の公的研究機関の教育または研究ができる。	感性を科学的な視点から捉えることができる。	人と人、人との又は人と環境の関係をユーザー感性学の視点からとらえ、豊かなものにしていく。	ユーザーの視点に立って感性価値創造のプロセスをマネジメントできる。	企業や行政、地域社会に入り、現場が抱える課題を体験することや、現実的な課題にチームで取り組み、問題発見、仮説設定、集団的な知的創造、解決策提示の一連のプロセスを主導的に推進する。	企業や行政の協力・参画による共同研究などを通して、社会との新しい関係を構築できる。	ユーザー感性に立脚し、知識や技術の修得ができる。	幅広い見識と教養を身につけ、人の感情や物事の本質を理解し、組織を動かすことができる。	国際的な視野を持ってリーダーシップを発揮できる能力を涵養する。					
1年次		2年次																							
		前期	後期	前期	後期																				
統合新領域最先端セミナー					☆																	◎	◎		
感性科学概論					☆				☆							☆							☆		
感性価値創造概論					◎				◎																
感性コミュニケーション概論					◎				◎																
UKSPTL(感性科学Ⅰ)						☆	☆		◎	○	○	◎	☆		◎	◎	◎								
感性人類学					☆								◎										◎		
人間発達学														◎									☆		
心理物理学													◎	☆									◎		
感覚生理心理学													☆										◎	◎	
感性生理学					☆								☆										◎		
感覚生理心理学演習						○			◎				☆	☆									◎		
UKSPTL(感性科学Ⅱ)						☆	☆		◎	○	○	◎	☆		◎	◎	◎								
感情生理心理学													☆										◎	◎	
適応行動論													☆	◎									◎		
感性心理学					☆																		☆		
美学					◎																		☆	◎	
感性哲学					☆																		☆	◎	
感性生理心理学演習						○			◎				☆	☆									◎		
インターンシップ							☆			◎	◎														
特別研究(1)					☆			◎	☆			☆	☆	☆	☆							☆			
特別研究(2)					☆			◎	☆			☆	☆	☆	☆								☆		

統合新領域学府 ユーザー感性学専攻 教育の目的				<p>・知の活用主体であるユーザーの視点から、また、感性を基盤とする人間理解の上において、感性価値の創造を推進する高度な専門人材を育成する。</p> <p>・感性の研究教育を通し、さまざまな知を感性と融合させ、個人と社会の満足を創造する能力(学位:感性学が該当)、ユーザー感性学の方法論に芸術工学のモノづくり及び技術の人間化の視点を融合させた新しい知の統合を実践できる能力(学位:芸術工学が該当)、ユーザー感性学の方法論に工学的手法を活用した研究内容及び研究成果を有し、工学分野での評価が認められる研究能力(学位:工学が該当)を有する高度専門人材を育成する。</p>																	
感性コミュニケーションコースのカリキュラムマップ				ユーザー感性学専攻の学位プログラム(DP)																	
				(☆:DP達成のために、特に重要、◎:DP達成のために、重要、○:DP達成のために、望ましい)																	
				到達目標																	
授業科目名				A 知識・理解				B 機能 (B-1専門的能力)				B 機能 (B-2汎用的能力)				C 態度・指向性					
				基礎知識を習得し、ユーザー感性学の広範な研究分野を理解する。				専門基礎知識を習得し、応用に向けた実践的活用ができる				手法による支援、開拓、を行うことができる。				問題の発見・定式化・解決を自主的に行う姿勢を有し、応用を常に意識して基礎理論の研究に取り組む。					
開講年次		1年次		学生1人ひとりの出身分野や関心領域を活かし、ユーザー感性学という専門分野を説明できる。	実社会の現実の課題に対し、チームで取り組み、ユーザーの感性を用いて高度な解決策を提案できる。	PTL(プロジェクトチーム演習)及びインターンシップにより、実践的な場面で有用な知識を習得する。	感性科学コース、感性コミュニケーションコース、感性価値創造コースの3コースにおける各専門性を活かした、より高度な知識を習得する。	企業での感性評価技術の開発及び製品評価の研究開発ができる。	企業のマーケティング調査及び製品企画に関わる企画研究ができる。	医療、福祉、教育現場などの情報サービスの調査・企画研究ができる。	大学等の公的研究機関の教育または研究ができる。	感性を科学的な視点から捉えることができる。	人と人、人との又は人と環境の関係をユーザー感性学の視点からとらえ、豊かなものにしていく。	ユーザーの視点に立って感性価値創造のプロセスをマネジメントできる。	企業や行政、地域社会に入り、現場が抱える課題を体験することや、現実的な課題にチームで取り組み、問題発見、仮説設定、集団的な知的創造、解決策提示の一連のプロセスを主導的に推進す	企業や行政の協力・参画による共同研究などを通して、社会との新しい関係を構築できる。	ユーザー感性学に立脚し、知識や技術の修得ができる。	幅広い見識と教養を身につけ、人の感情や物事の本質を理解し、組織を動かすことができる。	国際的な視野を持ってリーダーシップを発揮できる能力を涵養する。		
前期	後期	前期	後期																		
統合新領域最先端セミナー				☆																◎	◎
感性科学概論				◎				◎													
感性コミュニケーション概論				☆				☆					☆						☆		
感性価値創造概論				◎				◎													
UKSPTL (感性コミュニケーションⅠ)					☆	☆		◎	○	◎	◎		☆	◎	◎	◎					
UKSPTL (感性コミュニケーションⅢ)					☆	☆		◎	○	◎	◎		☆	◎	◎	◎					
生涯発達心理学					◎						☆				○	○			☆	◎	
感性表現論											◎	☆							◎		
実践子ども論					◎						◎		☆		○	○			◎		
現代子ども文化論										◎			☆						◎		
小児・家族コミュニケーション演習					◎					◎			☆						◎		
ファンリテーション演習					○			◎		◎	☆			☆					◎		
実践形成型フィールドワーク演習					○					☆	◎		☆		◎	☆			☆		
UKSPTL (感性コミュニケーションⅡ)					☆	☆		◎	○	◎	◎		☆	◎	◎	◎					
UKSPTL (感性コミュニケーションⅣ)					☆	☆		◎	○	◎	◎		☆	◎	◎	◎					
異文化コミュニケーション論											◎		☆						◎		
小児家族看護学					◎					◎			☆						◎		
チャイルド・ライフ・スペシャリスト論										◎			☆						◎		
小児・家族コミュニケーション演習					◎					◎			☆						◎		
創造的ディスカッション演習					○			◎			☆			☆					◎		
インターンシップ						☆			◎	◎											
特別研究(1)				☆			◎	☆			☆	☆	☆						☆		
特別研究(2)				☆			◎	☆			☆	☆	☆						☆		

統合新領域学府 ユーザー感性学専攻 教育の目的					<p>・知の活用主体であるユーザーの視点から、また、感性を基盤とする人間理解の上に立って、感性価値の創造を推進する高度な専門人材を育成する。</p> <p>・感性の研究教育を通し、さまざまな知を感性と融合させ、個人と社会の満足創造する能力(学位:感性学が該当)、ユーザー感性学の方法論に芸術工学のモノづくり及び技術の人間化の視点を融合させた新しい知の統合を実践できる能力(学位:芸術工学が該当)、ユーザー感性学の方法論に工学的手法を活用した研究内容及び研究成果を有し、工学分野での評価が認められる研究能力(学位:工学が該当)を有する高度専門人材を育成する。</p>																
感性価値クリエーションコースのカリキュラムマップ					ユーザー感性学専攻の学位プログラム(DP)																
					(☆:DP達成のために、特に重要、◎:DP達成のために、重要、○:DP達成のために、望ましい)																
					到達目標																
開講年次					A 知識・理解			B 機能 (B-1専門的能力)				B 機能 (B-2汎用的能力)				C 態度・指向性					
					基礎知識を習得し、ユーザー感性学の広範な研究分野を理解する。			専門基礎知識を習得し、応用に向けた実践的活用ができる				手法による支援、開拓、を行うことができる。				問題の発見・定式化・解決を自主的に行う姿勢を有し、応用を常に意識して基礎理論の研究に取り組む。					
授業科目名	1年次		2年次		学生1人ひとりの出身分野や関心領域を活かし、ユーザー感性学という専門分野を説明できる。	実社会の現実の課題に対し、チームで取り組み、ユーザーの感性を用いて高度な解決策を提案できる。	PTL(プロジェクトチーム演習)及びインターンシップにより、実践的な場面で有用な知識を習得する。	感性科学コース、感性コミュニケーションコース、感性価値クリエーションコースの3コースにおける各専門性を活かした、より高度な知識を習得する。	企業での感性評価技術の開発及び製品開発ができる。	企業のマーケティング調査及び製品企画に関わる企画研究ができる。	医療、福祉、教育現場などの情報サービスの調査・企画研究ができる。	大学等の公的研究機関の教育または研究ができる。	感性を科学的な視点から捉えることができる。	人と人、人との又は人と環境の関係をユーザー感性学の視点からとらえ、豊かなものにしていく。	ユーザーの視点に立って感性価値創造のプロセスをマネジメントできる。	企業や行政、地域社会に入り、現場が抱える課題を体験することや、現実的な課題にチームで取り組み、問題発見、仮説設定、集団的知的創造、解決策提示の一連のプロセスを主導的に推進する。	企業や行政の協力・参画による共同研究などを通して、社会との新しい関係を構築できる。	ユーザー感性に立脚し、知識や技術の修得ができる。	幅広い見識と教養を身につけ、人の感情や物事の本質を理解し、組織を動かすことができる。	国際的な視野を持ってリーダーシップを発揮できる能力を涵養する。	
	前期	後期	前期	後期																	
統合新領域最先端セミナー					☆															◎	◎
感性科学概論					◎				◎												
感性コミュニケーション概論					◎				◎												
感性価値クリエーション概論					☆				☆	☆										☆	
UKSPTL (感性価値クリエーションⅠ)						☆	☆		◎	☆	○	◎		○	◎	◎	◎	◎			
UKSPTL (感性価値クリエーションⅢ)						☆	☆		◎	☆	○	◎		○	◎	◎	◎				
次世代感性産業論											◎					☆			◎	◎	
ブランド価値創成論									☆	☆					☆				◎		
情報価値編集論									☆	☆					☆				◎		
関係のデザイン論									☆	☆					☆				◎		
プロジェクトマネジメント論									☆	☆					☆				◎	◎	
感性価値認知論										☆			☆		☆				☆		
UKSPTL (感性価値クリエーションⅡ)						☆	☆		◎	☆	○	◎		○	◎	◎	◎				
UKSPTL (感性価値クリエーションⅣ)						☆	☆		◎	☆	○	◎		○	◎	◎	◎				
景観価値形成論											◎					☆			◎		
自然環境価値形成論											◎					☆			◎		
地域文化デザイン論											◎					☆			◎		
クオリティカルテ価値評価論										☆				☆		☆			☆		
ユーザー参加型デザイン論									☆	☆					☆				◎		
感性価値抽出論									◎			☆			☆				◎		
感性マーケティング論									◎			☆			☆				☆		
インターンシップ							☆			◎	◎										
特別研究(1)					☆			◎	☆			☆	☆	☆					☆		
特別研究(2)					☆			◎	☆			☆	☆	☆					☆		

統合新領域学府 ユーザー感性学専攻 教育の目的							<p>・知の活用主体であるユーザーの視点から諸学問領域を統合し、感性を基盤とする人間理解のうえに立って、感性価値の創造を推進し、新たな知見を研究提案できる高度な専門人材及びそのような人材を養成する大学等での指導者・研究者を育成する。</p> <p>・感性の研究教育を通し、さまざまな知をユーザー感性と融合させ、個人と社会の満足創造できる能力(学位:感性学が該当)、ユーザー感性学の方法論に芸術工学のモノづくり及び技術の人間化の視点を融合させた新しい知の統合を実践できる能力(学位:芸術工学が該当)、特に文理融合的であり、既存の学問分類を超えて統合された能力(学位:学術が該当)、更に、次世代の人材を育てる大学又は研究機関、NPO、NGO等での専門家や実践者を養成するのにふさわしい教育力(全ての学位が該当)を有する高度専門人材を育成する。</p>																
感性博士課程のカリキュラムマップ							ユーザー感性学専攻の学位プログラム(DP)																
							(☆:DP達成のために、特に重要、◎:DP達成のために、重要、○:DP達成のために、望ましい)																
							到達目標																
							A 知識・理解			B 機能 (B-1専門的能力)				B 機能 (B-2汎用的能力)				C 態度・指向性					
							基礎知識を習得し、ユーザー感性学の広範な研究分野を理解する。			専門基礎知識を習得し、応用に向けた実践的活用ができる				手法による支援、開拓、を行うことができる。				問題の発見・定式化・解決を自主的に行う姿勢を有し、応用を常に意識して基礎理論の研究に取り組む。					
授業科目名		開講年次					学生1人ひとりの出身分野や関心領域を活かし、ユーザー感性学という専門分野を説明できる。	実社会の現実の課題に対し、チームで取り組み、ユーザーの感性を用いて高度な解決策を提案できる。	PTL(プロジェクトチーム演習)及びインターシップにより、実践的な場面で有用な知識を習得する。	感性科学コース、感性コミュニケーションコース、感性価値クリエーションコースの3コースにおける各専門性を活かした、より高度な知識を習得する。	企業での感性評価技術の開発及び製品評価の研究開発ができる。	企業のマーケティング調査及び製品企画に関わる企画研究ができる。	医療、福祉、教育現場などの情報サービスの調査・企画研究ができる。	大学等の公的研究機関の教育または研究ができる。	感性を科学的な視点から捉えることができる。	人と人、人との又は人と環境の関係をユーザー感性学の視点からとらえ、豊かなものにしていく。	ユーザーの視点に立って感性価値創造のプロセスをマネジメントできる。	企業や行政、地域社会に入り、現場が抱える課題を体験することや、現実的な課題にチームで取り組み、問題発見、仮説設定、集団的な知的創造、解決策提示の一連のプロセスを主導的に推進する。	企業や行政の協力・参画による共同研究などを通して、社会との新しい関係を構築できる。	ユーザー感性学に立脚し、知識や技術の修得ができる。	幅広い見識と教養を身につけ、人の感情や物事の本質を理解し、組織を動かすことができる。	国際的な視野を持ってリーダーシップを発揮できる能力を涵養する。	
																							1年次
		前期	後期	前期	後期	前期																	後期
感性科学特論							☆			☆					☆					☆			
感性コミュニケーション特論							☆			☆					☆					☆			
感性価値クリエーション特論							☆			☆	☆									☆			
上級PTL演習A								☆	☆		◎	○	○	◎	☆		◎	◎	◎			◎	◎
上級PTL演習B								☆	☆		◎	○	◎	◎		☆	◎	◎	◎			◎	◎
上級PTL演習C								☆	☆		◎	☆		○	◎	◎	◎	◎				◎	◎
ユーザー感性学専攻特別研究							☆			◎	☆			☆	☆	☆				☆			
本専攻修士課程を修了していない者に履修を推奨する科目群																							
感性科学概論							☆			☆					☆					☆			
感性コミュニケーション概論							☆			☆						☆				☆			
感性価値クリエーション概論							☆			☆	☆	☆								☆			
UKSPTL (感性科学Ⅰ)								☆	☆		◎	○	○	◎	☆		◎	◎	◎				
UKSPTL (感性コミュニケーションⅠ)								☆	☆		◎	○	◎	◎		☆	◎	◎	◎				
UKSPTL (感性コミュニケーションⅢ)								☆	☆		◎	○	◎	◎		☆	◎	◎	◎				
UKSPTL (感性価値クリエーションⅠ)								☆	☆		◎	☆	○	◎		○	◎	◎	◎				
UKSPTL (感性価値クリエーションⅢ)								☆	☆		◎	☆	○	◎		○	◎	◎	◎				
UKSPTL (感性科学Ⅱ)								☆	☆		◎	○	○	◎	☆		◎	◎	◎				
UKSPTL (感性コミュニケーションⅡ)								☆	☆		◎	○	◎	◎		☆	◎	◎	◎				
UKSPTL (感性コミュニケーションⅣ)								☆	☆		◎	○	◎	◎		☆	◎	◎	◎				
UKSPTL (感性価値クリエーションⅡ)								☆	☆		◎	☆	○	◎		○	◎	◎	◎				
UKSPTL (感性価値クリエーションⅣ)								☆	☆		◎	☆	○	◎		○	◎	◎	◎				

オートモーティブサイエンス専攻カリキュラムマップ(修士(オートモーティブ), 修士(工学), 修士(学術))(*)

◎:必修科目 ○:選択必修科目 △:副専攻科目及び関連科目

学年	学期	授業科目名	単位	先端材料科学分野			ダイナミクス分野			情報制御学分野				人間科学分野			社会科学分野		
				自動車会社等の技術研究職	自動車会社等の技術専門職	大学や研究機関の研究者	自動車会社等の技術研究職	自動車会社等の技術専門職(設計・開発)	自動車会社等の技術専門職(生産・品質管理)	自動車会社等の技術研究職(制御)	自動車会社等の技術研究職(組込ソフト)	自動車会社等の技術専門職(電子)	自動車会社等の技術経営スタッフ	大学や研究機関の研究者(制御)	自動車会社等の技術経営スタッフ	自動車会社等の調査機関の専門スタッフ	官公庁等の調査機関の専門スタッフ	大学や研究機関の研究者	官公庁等の調査機関の専門スタッフ
通年		修士論文	-	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		国際コミュニケーション演習	4	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		インターンシップ I	3	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		インターンシップ II	2	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
		インターンシップ III	2	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
		インターンシップ IV	2	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
		オートモーティブサイエンス特別演習 I	1	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
		オートモーティブサイエンス特別演習 II	1	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
1年	前期	統合新領域最先端セミナー	1	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		オートモーティブサイエンス概論	1	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		オートモーティブサイエンス演習 I	2	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		オートモーティブ先端材料科学概論	2	◎	◎	◎	△	△	△										
		自動車用鉄鋼材料学	2		○	○	△	△											
		自動車用材料の接合および複合学	2	○															
		自動車用非鉄金属材料制御学	2			○													
		エネルギー材料科学	2	○	○	○								△					
		セラミック材料物性学	2	○	○	○													
		オートモーティブ環境科学 I	2	○	○	○	△	△				△	△						
		自動車用表示材料特論	2																
		オートモーティブダイナミクス概論	2	△	△	△	◎	◎	◎		△								
		自動車空気力学特論	2				○	○	○										
		自動車動力源特論	2				○	○	○					△					
		自動車強度学特論	2			△	○	○	○	△									
		高剛性自動車構造学特論	2					○		△									
	オートモーティブ情報制御学概論	2	△		△	△	△	◎	◎	◎	◎	◎							
	組込みハードウェア特論	2							○	○									
	組込みソフトウェア特論	2				△			○	○	○	○							
	ロボ制御特論	2							○	○	○		○						
	移動体通信基礎論	2								○		○							
	自動車センサシステム特論	2							○			○							
	自動車パワーエレクトロニクス特論	2										○	○						
	自動車情報計測制御演習	2							○	○	○	○	○						
	自動車電子デバイス特論	2							○	○	○	○	○						
	オートモーティブ人間科学概論	2	△				△	△						◎	◎	◎	△	△	△
	エクステリア・エアロ デザイン	2														○			
	自動車感性評価学	2		△					△			△					△	△	△
	交通心理学	2	△						△	△				○	○	○	△	△	△
	自動車応用利用論	2								△				○			△	△	△
	車と人間	2	△	△								△		○			△	△	△
	交通流工学	2	△	△							△		△		○				
オートモーティブ環境科学 II	2												○	○	○				
オートモーティブ社会科学概論	2		△	△										△			◎	◎	◎
経営管理特論	2																○	○	○
イノベーション・マネジメント	2												△				○	○	○
グローバル経営	2										△			△					○
エコロジーの経済	2										△				△				○
生産管理	2																		○
後期		オートモーティブサイエンス演習 II	2	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		塑性変形学	2		○				△										
		自動車用高分子材料学	2	○	○				△										
		自動車用触媒科学	2	○	○	○	△												
		自動車用表示材料特論	2		○														
		構造・動力学特論	2			△	○	○	○					△					
		構造・動力学演習	2						○										
		自動車空気力学演習	2					○											
		自動車動力源演習	2				○												
		モータース環境科学	2			△	○		○										
		自動車情報計測制御演習	2						○	○	○	○	○						
		インテリア・インタフェース デザイン	2												○	○			
		自動車安全文化論	2		△			△				△		○	○		△	△	△
		海外都市計画	2									△			○				
		交通情報・誘導学	2							△	△	△		○	○				
	2年	前期	オートモーティブサイエンス演習 III	2	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
後期		オートモーティブサイエンス演習 IV	2	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

(*) オートモーティブサイエンス専攻修士課程において認定される学位種別(オートモーティブ, 工学, 学術)については, 就学期間中の指導体制, 履修科目, 修士論文テーマ等からなる研究計画により決定される。

オートモーティブサイエンス専攻カリキュラムマップ(博士(オートモーティブ), 博士(工学), 博士(学術))(**)

◎:必修科目 △:選択推奨科目

		教育目標(履修モデル)		先端材料科学分野	ダイナミクス分野	情報制御学分野	人間科学分野	社会科学分野
学年		授業科目名	単位	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車会社の製品企画マネージャー ・自動車会社等のチーフエンジニア ・大学等や研究機関の研究者 	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車会社等の主任研究者 ・自動車会社等のチーフエンジニア ・大学や研究機関の研究者 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学や研究機関の研究者 ・自動車会社等のチーフエンジニア ・自動車会社等の主任研究者 ・自動車交通関連の行政官やシンクタンクのスタッフリーダー 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学や研究機関の主任研究者 ・行政機関や自動車会社等の技術系スタッフリーダー ・自動車会社等の専門スタッフリーダー 	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車会社等の経営企画スタッフや技術経営マネージャー ・行政機関等やシンクタンクの専門スタッフリーダー ・大学や研究機関の主任研究者
通年		博士論文	-	◎	◎	◎	◎	◎
		オートモーティブサイエンス特別研究A	12	◎				
		オートモーティブサイエンス特別研究B	12		◎			
		オートモーティブサイエンス特別研究C	12			◎		
		オートモーティブサイエンス特別研究D	12				◎	
		オートモーティブサイエンス特別研究E	12					◎
		上級国際コミュニケーション演習	2	◎	◎	◎	◎	◎
		リサーチワークショップ	2	△	△	△	△	△
		インターンシップ	3	△	△	△	△	△
1年	前期	オートモーティブサイエンス特論1	1	◎	◎	◎	◎	◎

(**) オートモーティブサイエンス専攻博士後期課程において認定される学位種別(オートモーティブ, 工学, 学術)については, 就学期間中の指導体制, 履修科目, 博士論文テーマ等からなる研究計画により決定される。

到達目標	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期
A 知識・理解				
・図書館情報学および記録管理学・アーカイブズ学に基づく、情報の生成・管理・運用の体系について説明できる。	・情報マネジメント論 ・図書館マネジメント論 ・文書記録マネジメント論		・文書記録活動論	
・情報の管理・提供を行う組織の機能と役割、基本となる立法や政策について説明できる。	・図書館政策論			
・電子媒体の情報をも対象とした、情報統制の法的側面、および流通制度の現状について説明できる。		・情報法制論	・情報サービスと著作権	
・これからの情報の管理・提供を実現するための情報通信技術について説明できる。	・構造化文書運用演習 ・情報システム論	・電子資料開発論(旧「情報リテラシー論」)	・情報セキュリティー論	
・ユーザーの知の創造・継承活動における情報利用を支援するために必要な、教育と学習に関する理論、効果的なコミュニケーションの方法論について説明できる。	・コミュニケーション論	・学習科学		
・特定の主題領域の知識の概要を説明できる。	自由選択科目			
B 技能				
B-1 専門的能力				
・紙媒体や電子媒体などの形式を問わず、また前近代の図書や記録についても、資料の歴史的な性格や生成のプロセス等を把握し、適切に整理・管理し、ユーザーの求めに応じた情報提供ができる。	・文書記録資料論 ・情報資源保存論	・ライブラリー資料論 ・文書記録特殊資料論 ・ライブラリー特殊資料論		
・大量の情報の中から有用な情報を抽出するための、自然言語解析、情報の組織化・マイニング、統計分析ができる。	・情報評価分析論 ・データベース演習	・情報組織化論 ・数理統計 ・自然言語解析	・データマイニング	
・情報の検索や利用について、法的な問題を踏まえたうえで、ユーザーを的確に教育し導くことができる。	・情報サービス論 ・文書記録管理政策論	・レファレンスサービス論		
・国内および国際的な学会・論文レベルで、正しく自分の考えを表現することができる。	・外国語資料講読演習Ⅰ	・外国語資料講読演習Ⅱ		
B-2 汎用的能力				
・専門分野の内容の高度な理解と、学問固有の思考を獲得する。		◎特別研究Ⅰ		◎特別研究Ⅱ
・図書館情報学および記録管理学・アーカイブズ学における諸問題を、統一的視点から考察できる視点を身につける。		◎PTLⅠ	◎PTLⅡ	
・表現能力(自分の意見を明瞭に述べる能力)とコミュニケーション能力(討論能力、ユーザーの抱える問題点を明確化するための傾聴能力、他分野を理解し統合する能力)を鍛え、他者と積極的に交流する能力を養う。	◎コミュニケーション論 ・科学の統合方法論	◎PTLⅠ	◎PTLⅡ	
・社会のシステム・技術の急速な変容を鋭敏に察知し、自らの研究に取り入れる柔軟性を身につける。	インターンシップ			
・問題の中身をよく吟味し、それを解決するための方法を提示し、実行する能力、またはチームを運営する能力を身につける。		◎PTLⅠ	◎PTLⅡ	
C 態度・志向性				
・自ら進んで課題に取り組む積極性を持つ。	インターンシップ			
		◎特別研究Ⅰ		◎特別研究Ⅱ
・周りとの協力を進めながら問題解決へ努力する協調性を身につける。		◎PTLⅠ	◎PTLⅡ	
・問題解決にあたり様々なアプローチの可能性を考える。		◎PTLⅠ	◎PTLⅡ	
・新しい学問領域を発展させようという進取の精神を持つ。		◎特別研究Ⅰ		◎特別研究Ⅱ
・自ら得た学術的成果を、積極的に社会に還元する姿勢を持つ。		◎特別研究Ⅰ		◎特別研究Ⅱ

到達目標	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期
A 知識・理解						
・図書館情報学、記録管理学・アーカイブズ学、情報科学からのそれぞれの課題解決に向けた考え方を知識として身に付ける。	・プレゼンテーション演習	・プレゼンテーション演習	・プレゼンテーション演習 ・ライブラリーサイエンス特論	・プレゼンテーション演習	・ライブラリーサイエンス特別研究	・ライブラリーサイエンス特別研究
・図書館情報学、記録管理学・アーカイブズ学、情報科学のそれぞれの知見や研究成果を修得する。						
・図書館情報学、記録管理学・アーカイブズ学、情報科学について、それぞれの知識を統合する。	◎ライブラリーサイエンス特別研究	◎ライブラリーサイエンス特別研究	◎ライブラリーサイエンス特別研究 ◎ライブラリーサイエンス特論	◎ライブラリーサイエンス特別研究	◎ライブラリーサイエンス特別研究	◎ライブラリーサイエンス特別研究
・ライブラリーサイエンス研究に関する幅広い知識を修得する。						
B 技能						
B-1 専門的能力						
・図書館情報学、記録管理学・アーカイブズ学、情報科学のそれぞれの知見や研究成果を利用して、課題を解決する能力、従来の枠組みにとらわれことなく情報の管理・提供のより良い仕組みを探求する能力を身に付ける。	◎ライブラリーサイエンス特別研究	◎ライブラリーサイエンス特別研究	◎ライブラリーサイエンス特別研究	◎ライブラリーサイエンス特別研究	◎ライブラリーサイエンス特別研究	◎ライブラリーサイエンス特別研究
・課題を解決するために考案する理論やモデル、手法を、ユーザーの視点に立って評価・分析し、ユーザーにとってどのような管理・提供が意義あるかを考察する能力を身に付ける。						
・情報の管理・提供における諸問題を、統合的な観点から思考できるようになる。						
B-2 汎用的能力						
・研究計画の立案、文献調査、実験あるいはデータ収集、結果の解析及びその解釈と考察等、自ら独立した研究を行うための一般的な能力を身に付ける。						
・自身の研究対象の分野を深く探求する能力を身に付ける。	◎ライブラリーサイエンス特別研究	◎ライブラリーサイエンス特別研究	◎ライブラリーサイエンス特別研究	◎ライブラリーサイエンス特別研究	◎ライブラリーサイエンス特別研究	◎ライブラリーサイエンス特別研究
・討論等を通して、自身の研究を深化させることができる。	◎プレゼンテーション演習	◎プレゼンテーション演習	◎プレゼンテーション演習 ◎ライブラリーサイエンス特論	◎プレゼンテーション演習		
・国内および国際的な学会・論文レベルで、自らの得た知見・成果を的確に表現することができる。						
・社会のシステム・技術の急速な変容を鋭敏に察知し、自らの研究に取り入れることで、先進的を獲得する。						
・表現能力(自分の意見を明瞭に述べる能力)とコミュニケーション能力(討論能力、ユーザーの抱える問題を明確化するための傾聴能力、他分野を理解し統合する能力)を鍛え、国内外の研究者・技術者などと積極的に交流し、新たな知見を生み出す。	◎プレゼンテーション演習	◎プレゼンテーション演習	◎プレゼンテーション演習 ◎ライブラリーサイエンス特論	◎プレゼンテーション演習		
・チームを的確に運営するとともに、次世代のリーダーを育成する能力を身に付ける。						
C 態度・志向性						
・課題に対してじっくりと取り組む忍耐力を持つ。	◎ライブラリーサイエンス特別研究	◎ライブラリーサイエンス特別研究	◎ライブラリーサイエンス特別研究	◎ライブラリーサイエンス特別研究	◎ライブラリーサイエンス特別研究	◎ライブラリーサイエンス特別研究
・新しい学問領域を発展させようという進取の精神を持つ。						
・得られた学術上の成果を、積極的に社会に還元する姿勢を持つ。						
・他の研究者の意見にも謙虚に耳を傾ける協調性を備える。	◎プレゼンテーション演習	◎プレゼンテーション演習	◎プレゼンテーション演習 ◎ライブラリーサイエンス特論	◎プレゼンテーション演習		
・様々なアプローチの可能性を考える柔軟な思考を身に付ける。						